

住宅と資産価値

Vol. 1

P

創刊号のポイント

1. 住宅を買う時には将来売ることも想定しておく。
2. 住宅は本来家族の資産であり長く使っていけるもの。
3. Hejsan! とはスウェーデン語でこんにちは！の意味。

?

筆者プロフィール

金井田晃央(かないだあきお)
1975年 群馬県生まれ
日本大学大学院(建築・構造)を卒業後、スウェーデンへ渡る。
スウェーデンで住宅・建材の輸出マネージャーを10年間務める。
河本工業の次世代型住宅である“Komoto Hus”(河本ヒュース)の開発メンバーに携わる一人。
スウェーデン住宅・建材・家具等の輸入手配を主に担当している。
筆者ホームページ:
<http://mala-gruppen.com>



築100年以上でも資産価値を有するスウェーデンの木造住宅

Hejsan (ヘイサン; スウェーデン語で“こんにちは”の意味)!

この度、河本工業の次世代型住宅である“Komoto Hus(河本ヒュース)”に関するコラムを担当することになりました金井田晃央です。コラムは題して「スウェーデンの住宅とイノベーション」!

住宅先進国スウェーデンの哲学、ノウハウ、テクノロジー、建材を取り入れた“Komoto Hus”とは一体どんな住宅であって、どのように開発されたのか・・・?何が違うのか?“Hus(ヒュース)”って何? などなど、ご紹介していきます。みなさんからのご質問もお待ちしております!

突然ですが、みなさん、住宅を買う時に、売ることを考えていますか?

なんか変な質問ですよね?でも一度考えてみて下さい。住宅の耐用年数が100年くらいあったとすると、人は同じ家に100年間住み続けません。住宅は親から子へ、人から人へと資産として受け継がれていくことになります。資産価値の高い住宅は高く売れます。そうでないものは安く売れるか、全く売れません。

実はこれ、スウェーデンでは常識的なことなのです。これに対し、日本の住宅の耐用年数は約30年。

しかも、築30年の住宅などほとんど価値がなくなってしまうことも難しい状態です。

しかし、興味深いことに、構造体自体はもっと長く使えるものなのです。私たちはここに注目しました。

地震に強い住宅を基本として、資産価値のある本物の住まいを日本でも実現できないだろうか・・・?

こうして開発されたのが“Komoto Hus”であり、私たちの提案する次世代型住宅です。

次回は、住宅と断熱についてお話しします。お楽しみに!

文責 金井田晃央 (筆者へのお問い合わせ先: info@mala-gruppen.com)

Innovation : イノベーションとは、これまでのもの、仕組みなどに対して、
全く新しい考え方や技術を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起すこと。